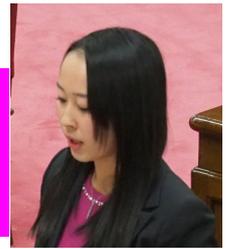


個人質問 西山あさみ議員 (2019年3月4日)

中学制服選択制の検討を 市長「完全に賛成」



防寒対策や生徒の意思を尊重するため、性別にかかわらずスラックスなどを選べる選択制の学制服を導入する例が増えています(右図)。西山議員は他都市の例を示しながら、「性別で固定しない選択制の中学校制服の導入」や「生徒や保護者らにアンケート調査をするなど、制服のあり方を改めて考える場を設けること」を提案しました。教育長は「制服のあり方については検討課題」と答えました。

さらに西山議員は市長に再質問。市長は「完全に賛成で、一遍生徒さんで議論を」と答えました。

西山議員は「大人が実践することが、何よりも子どもたちの人権教育に繋がる。市長にはぜひ、『制服自由化宣言』をして子どもたちの意見を聞く場を設けてほしい」と求めました。

☆☆☆ 中野区の中学校の制服 ☆☆☆



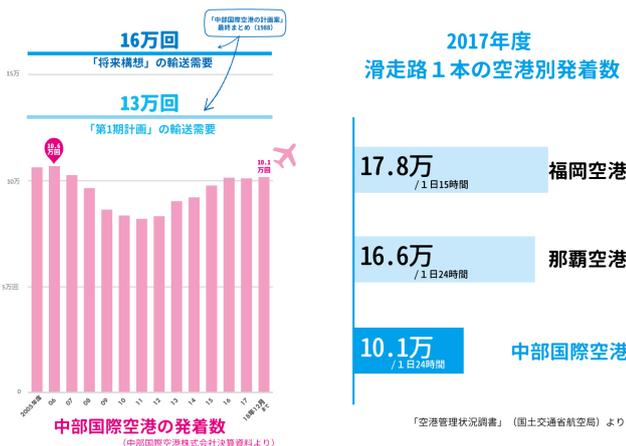
中野区のホームページより

中部国際空港2本目滑走路 急いでつくる必要なし 総務局長 必要性を示せず

利用者の増加などを理由に、中部国際空港に2本目の滑走路を作る計画が出ています。しかし、2017年度の年間発着回数は10.1万回、今年度は1月までの速報値で8.6万回で、最大だった開港翌年の10.6万回(2006年度)に及ばないのが現状です(下図)。

当初の計画案の需要に満たない

西山議員は、1998年3月の「中部国際空港の計画案」(最終まとめ)を引用。滑走路を1本とした「第1期計画」では発着回数は約13万回、「将来的には航空輸送需要が滑走路1本の処理能力を上回る」とされる「将来構想」では約16万回と見込んでいることに触れ、「現状はこれらの需要にも満たない」とたどしました。



「混雑空港」(航空法) ではない

さらに西山議員は、航空法上「混雑空港」に指定されているのは、成田・羽田・関西・伊丹・福岡空港のみで、中部国際空港は指定されていないことを指摘しました。

より多くの発着回数を一本の滑走路でうけいれている他空港

また他の空港では、那覇空港では発着回数16.6万回、福岡空港では17.8万回であっても1本の滑走路で対応できていました(福岡空港は2016年に「混雑空港」に指定)。西山議員は「他空港と比べても現状中部国際空港には余裕が有り、2本目滑走路を急いでつくる必要性はない」と指摘しました。

総務局長は「LCCの航空需要を取り込むことで、発着回数は増加すると考える」として、必要性の根拠を答えられませんでした。

県営名古屋空港にも余裕はある

県営名古屋空港の2017年の発着回数は4.3万回。中部国際空港ができる前の2004年の発着回数は12.4万回だったので、名古屋空港にもまだまだ余裕があります。西山議員は「2本の滑走路が別の場所にあるほうがリスクマネジメントとしてもよい」と指摘し、急いで2本目滑走路をつくる必要はないと述べました。